

## 当院における 教育支援・復学支援に関する研究

研究分担者 埼玉県立小児医療センター 血液・腫瘍科 医長 荒川ゆうき

### 研究要旨

小児がんの治療成績はここ数十年の間に劇的に向上し、それに伴い治療中・治療終了後の身体的・社会的な生活の質が注目されるようになった。長期入院治療を必要とする思春期血液・腫瘍患者にとって、入院中の就学支援・および退院後の復学支援は重要な課題の一つである。

当センターには県立岩槻特別支援学校の小・中学部が併設されており、入院と同時期に転校の手続きを行い、訪問学級や登校学級により学習面でのサポートを行っている。退院の前には復学支援を行うことによりスムーズな復学を可能にしていると考え、特別支援学校と連携した就学・復学支援の具体的な方法や就学状況などについて調査を行う。

### A) 研究目的

小児がん患者の就学・復学支援がどのように行われているかの実態を検討する。

- 埼玉県立岩槻特別支援学校の小・中学部が併設

ii) 特別支援学校本校・分校・分教室・訪問、小・中学校の病院内の特別支援学級のうちいずれか

### B) 研究方法

研究班全体で統一した以下の項目で病院内の教育環境の調査を行った。

- 特別支援学校本校

i) 院内学級・学校等の名称

iii) ベッドサイド事業の有無

ii) 特別支援学校本校・分校・分教室・訪問、小・中学校の病院内の特別支援学級のうちいずれか

- 有

iv) 高校教育の有無

iii) ベッドサイド事業の有無

- 高校教育が無く重要な課題の一つとなっている

iv) 高校教育の有無

v) IT活用事業

v) IT活用事業の有無と活用事例

- 無し

vi) その他特記すべき事項

vi) その他特記すべき事項

教育支援

### C) 研究結果

i) 院内学級・学校等の名称

・ 入学とともにすみやかに転校の手続きを行い、併設された特別支援学校(小・中学部)で授業を受けることができる

よう配慮を行っている。

- ベッドサイドでの「訪問学級」と通学による「登校学級」があり授業を受けることができる。
- 治療計画や病状や体調などに基づき、授業形態は流動的である。
- 病棟では、必要があれば学習を別室で行えるように配慮している。

#### 復学支援の状況

- 小中学部に関しては、小学部 19 名、中学部 8 名(2013 年 9 月～2014 年 8 月)が入院中に前籍校より転校の手続きを行って在籍し、退院後に全例が前籍校に復学している。
- 復学前には、四者面談(原籍校教員、支援学校教員、児と保護者、医療者)を行い、学習の進行状況や学校生活での配慮点、病気と治療に関する医療的な説明を行うなどしてより円滑な復学を可能にしている。

#### **D) 考察**

今後の課題として、特別支援学校には高等部がないことから、高校生に対する学習支援は十分とはいえない。現在、特別支援学校に高校生の指導を行える教員の配置の要請を行っているが、進展はしていない。また入院前に在籍する学校側への理解を求める要請も引き続き行い、退学後も復学が可能な制度や、単位の変換制度などを実現するような高校生の学習支援・復学支援について検討を行っている。

#### **G) 研究発表** 該当なし